

3月定例会



平成31年3月定例会が、2月26日に招集され、3月15日までの18日間の会期で開かれました。

今定例会の一般質問では、10人の議員が登壇し、市政を問いました。

市が提出した案件は全30議案で、条例9件、平成31年度一般会計予算を含む17件、その他4件を審議しました。

審議結果は、議案第17号を否決、その他は全会一致で原案のとおり可決しました。

また、最終日の本会議では、教育長の任期満了に伴う人事案件1件と条例1件、その他1件が上程され可決したほか、議員発議による意見書1件を可決しました。



議案第17号 遠野市営牧野条例料金改正案を否決

予算等審査特別委員会の審議の中で、特に議論されたのは議案第17号市営牧野条例の一部を改正する条例の制定についてです。

これは、遠野市営牧野を利用した際の放牧料金を4月1日から現行の220円を300円（キャトルセンター里山放牧料金については10月1日から600円を620円）に改定しようとするもので、予算委員会の中では、次のような質疑応答が交わされました。

問 利用者説明会では1頭400円の説明があった。違いは何か。
答 経費と放牧頭数を考え400円の提案をした。しかし、利用者からは、「さらなる放

牧頭数の減少につながる」「畜産経営がダメージを受ける」「値上げの前に市営牧野の再編と経費の圧縮などを行うべき」等の意見があり、再度検討した結果、300円とした。

問 利用者の高齢化、頭数の減少により、遠野市畜産振興公社の運営も厳しくなると思うが、市外の放牧地を利用している農家もあり、100頭近い牛が他の市町村に委託されている。どこに原因があると思うか。
答 原発被害により放牧できない期間があり、その時に他の放牧地を利用し、そのまま継続するよう誘いを受けたと聞いている。また、利用者から放牧場の管理についても厳し

い指摘を受けている。利用者に満足いただけるよう震災前の状況にしたい。

問 利用者の信頼を得ることが値上げより先ではないか。
答 牧野の再編、草地の管理業務の充実、施設の老朽化への対応も今後進めていかなければならない。原発事故後、利用料金を据え置いてきた。3年に1度の見直しの時期であり、公社経営の財源は、利用料金、市の負担、自主事業で賄っている。受益者負担を求めたい。

最終日の本会議では、反対・賛成それぞれの立場から討論が行われました。（討論の内容は次のとおりです。）

賛成討論

菊池 巳喜男 議員
遠野市畜産振興公社を取り巻く環境は、農協合併の際、その任を農協が取りやめたことにより遠野市のみ支援となった。

今回の料金改定がなされなければ、公社の運営が悪化する方向になると危惧され、放牧牛の各種サービスの低下も懸念される。このことを食い止めるためにさらに市の負担を増やせば市の財政運営に影響が出るものではないかと思慮される。

市や公社は現場主義を重視しながらこれらの牧場の在り方、運営を見ていくことは喫緊の課題であり、市が明確に改善すると答弁されている以上、否決することはできないと考えて賛成する。

反対討論

多田 勉 議員
現実の市営牧野機能は、十分に利用者の期待に応えられる状況にあるとは理解しがた。対価を求めるにふさわしいかしっかりと現場を直視し、牧野の設置目的を今一度紐解きながら、目的の達成にむけて、再構築を図る機会でもあると捉える。

利用者のさらなる負担を求めることが出来る環境条件をしっかりと整えた段階で提案すべき条例であり、議案に反対する。

議案第17号の採決では、賛成少数により否決。賛否の詳細は下記の通りです。



賛否の公表

賛否がわかれた議案等についてのみ掲載しています。

議案名		賛成	反対														
議案第17号	遠野市営牧野条例の一部を改正する条例の制定について【否決】	2	15														
議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
議員氏名	小松 正真	佐々木恵美子	菊池 浩士	佐々木敦緒	佐々木僚平	小林 立栄	菊池 美也	萩野 幸弘	瀧本 孝一	多田 勉	菊池由紀夫	菊池巳喜男	照井 文雄	荒川 栄悦	安部 重幸	新田 勝見	佐々木大三郎
議案第17号	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	●	●	●	●

※議長は採決に加わりません。○は賛成、●は反対。

審議結果は、遠野市ホームページで確認することができます。

遠野市議会 3月定例会 審議結果

